チャイナ　インサイト

第 40 回　日系主要三社の EV が中国で出揃う。勝機は？

上海莱弥信息咨询有限公司(インサイツ)　東京事務所　顧問　有田直矢

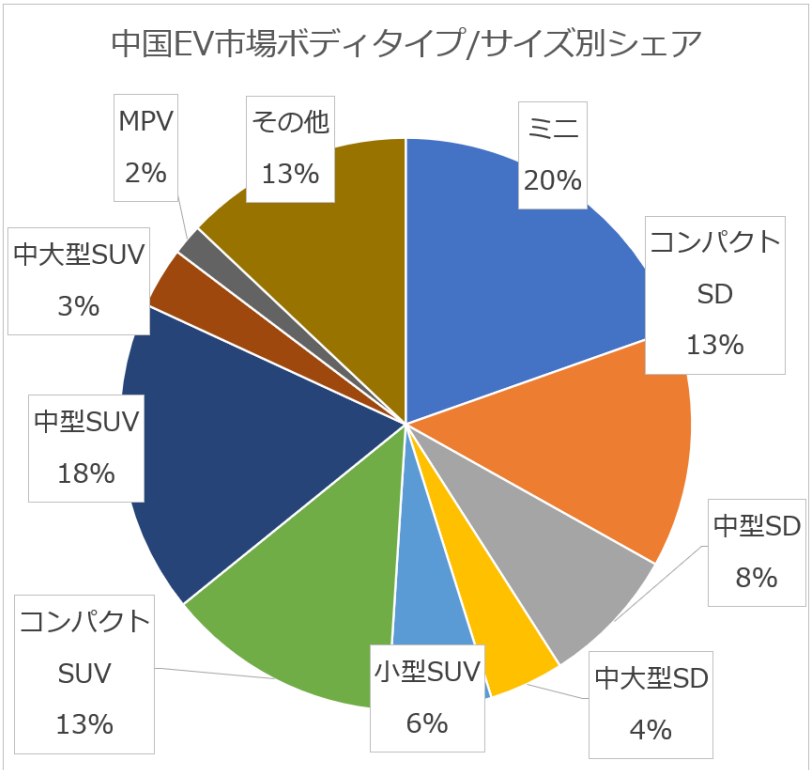
トヨタ自動車の中型 SU EV「bZ4X」が中国において発売開始し、日系主要三社の EV が中国で出そろった。結果的に最も後発となったトヨタだが、一汽トヨタはすでに bZ シリーズ第 2 弾、EV セダン「bZ3」を正式に発表、予約受付を開始、また、第 3 弾についても、シルエット写真で予告している。これを機に、中国における現状の日系 EV をまとめておく。

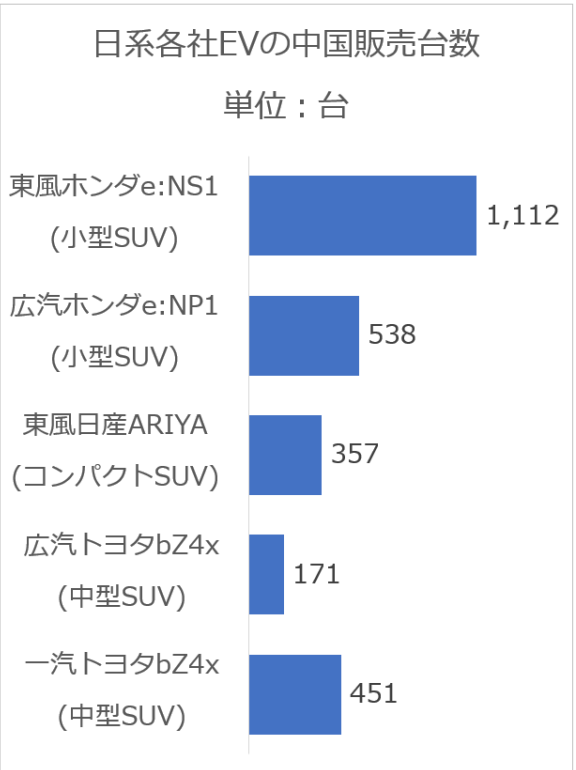
■いずれも SUV だが、いずれもボディサイズが異なる

まず、EV でも、トヨタやホンダの名称が冠せられてはいるものの、実質的には広汽集団ブランドである広汽ホンダ「広汽理念 VE1」、広汽トヨタ「广汽 iA5」、また、実はトヨタ中国は 2020 年 5 月から「C-HR」を、一汽トヨタでは「IZOA」と名を改めて、それぞれ EV を出しており、さらに、日産の中国独自ブランド「ヴェヌーシア」も EV を出しているが、今回これらは除外する。

端的に言えば、トヨタ中国の bZ シリーズ、ホンダ中国の e:N シリーズ、東風日産のコンパクト SU EV「ARIYA」が対象となる。トヨタ中国の bZ シリーズは、「bZ4x」を、各チャネル名(一汽トヨタ・広汽トヨタ)を冠して同名で発売しているが、ホンダ中国の e:N シリーズは小型 SU EV を東風ホンダでは「e:NS1」、広汽ホンダでは「e:NP1」として分けて発売している。

いずれも SUV だが、いずれもボディサイズが異なる。ちなみに 2022 年 11 月の単月とはなるが、それぞれの中国 EV 市場におけるシェアは、小型 SUV が 6%、コンパクト SUV が 13%、中型 SUV が 18%で、SUV 全体では 40%となる。通常の中国自動車市場であれば、SUV 比率はもっと高まるが、EV で限定すると、ミニの比率が極端に高まるため、セダンや SUV の比率は低くなりがちだ。





出展：中国新車購入時に加入した保険のデータに基づきインサイツ作成、いずれも 2022 年 11 月のデータ